

アウトドアガイド等へのヒアリングについて（中間報告）

ヒアリング調査における主な発言内容

○ ガイド資格のメリット

- 顧客への安全、安心のアピールができる
- 旅行会社からの信頼感が得られた
- ガイドとしての技術を示す唯一の公的資格である
- どうみん割で初めてメリットを感じた

○ ガイド資格の課題

- 資格自体の価値を高めて欲しい
- 顧客に知られていない制度とを感じる
- 資格を保有するメリットを高めて欲しい(資格保有事業者の優先紹介等)

○ AT振興やアウトドア事業拡大への課題

- ATWSの詳細が伝わっていない
- ガイドを使うタイプの観光の広報
- 外国語対応
- 外国語対応可能な人とガイドがセットで案内する仕組みが必要
- AT対応可能な旅行会社との協業支援があるとよい
- 通年のガイド業の実施が困難
- マスターガイド世代に頼りすぎている
- 若手人材不足、日本人ガイドの確保が困難
- 新たにAT資格制度を作るのではなく、エントリー制にすべき

テーマ	① 一定の収入を上げているガイド	② P S Aコースに携わる道ODガイド	③ その他道ODガイド資格保有者	④ 道ODガイドを持たない又は未更新のガイド（一定収入あり）
アウトドア事業の継続や拡大に向けた課題		マスターガイドクラス（世代）に頼りすぎ（中堅層の活躍必要） 若手人材の不足と育成（テールガイド等で20代のガイドを育成中）	通年通してガイド業ができないところも問題。ニセコなどはスキーもできるが、道東はスキー場自体が少なく、冬の観光客自体が少ない。	日本人ガイドの確保が難しい。技能ビザで来ている冬のスキーインストラクターをスポーツインストラクタービザに変えて夏も働いてくれるといい。通年雇用となりガイドスキルやサービスレベル上がり、海外の競合リゾートに勝てる。 若手人材の不足と育成（別の有資格ガイドと組んで無資格の若手をテールガイド等にして育成中）
ATに対応したガイド制度の方向性に関する意見				今の北海道アウトドア資格制度のように、新たにAT資格を作って取得させるのではなく、ATの指針を示して、エントリー制にすべき。つまり各ガイド（や事業者）から、ATのツアー内容（ストーリー）・運航規程・リスクマネジメント・ガイドスペックなどを提出させて、審査して承認・認定する仕組みがいい。
北海道アウトドアガイド資格制度を取得した動機	本制度立ち上げの委員だったから。当時は、資格がなくてもガイドだと名乗ればガイドになれた。ガイドの資質向上のために立ち上げた制度。特に登山は他の分野に比べ手も、命を預かる度合いが高い。自治体のお墨付きである資格が与えられることは、本人の意識付けと、自分が有資格者であるというPRにもなる。 お客様にしてみると、有資格が判断材料にもなるし、ガイド本人も料金設定がしやすい。当時は旅行代理店などからスポットガイドとして呼ばれることがほとんどで、ギャラが安かった。北海道にあこがれてガイドとして働いているなら、それで生計を立てられるレベルに引き上げたい。		ガイド業を始めるにあたって、自分の価値を公的に証明できると思ったから。 自分の技術を示すことができる唯一の公的資格だから。現状あまりメリットは感じていないが、取得したものを流すのももったいないので、そのままにしています。 当時所属していた事業所が資格制度立ち上げに関与していた関係で知り、日本初の公的機関のライセンスの魅力も感じて取得。	別の資格を取得するに当たり、道内で取得できる北海道ODガイドをまず取得して、その後移行制度を活用して本来の目的のガイド資格を取得 目的の資格を取得したので、メリットはあまり感じない。レベルも高いとは感じていない（→道ODガイド未更新）。
北海道アウトドアガイド資格制度を取得したことによるメリットや効果	取得していることで、旅行会社との契約がスムーズ。肩書になる。昨年のどうみん割が所有者のみとなったのは画期的であった。 スキル・安全面・ツアー運営についてなどたくさんの学びが得られた。ガイドとしてお客様へ安全と安心をアピールできる。お客様にプロガイドとして認めて頂けた。 今までメリットを感じたことはなかった。プロガイドになったという意識の問題。昨年のどうみん割の際、直接予算を頂けたときに初めてメリットを感じた。		旅行会社からの信頼感を得られた。 どうみん割で初めてメリットを実感した。 備考：) 知床の場合は、独自のガイドラインがあり（特に知床五湖登録引率者）、登録がないとガイド業ができないため、こちらの重要度が高かった。	どうみん割はうらやましいと思った。

アウトドアガイド等へのヒアリングについて（中間報告）

テーマ	① 一定の収入を上げているガイド	② P S Aコースに携わる道ODガイド	③ その他道ODガイド資格保有者	④ 道ODガイドを持たない又は未更新のガイド（一定収入あり）
どのようなメリットがあれば、より価値が高まる制度となるか	取得していることの価値が高まって、消費者への認知も進めば…。	地域の住民や商工観光課などの行政などの理解が深まると良い。ふるさと納税の返礼品に掲載する体験もガイド資格のない事業者を採用していたりするため。	現状のままでも十分メリットを感じる。旅行会社からの関心も高まってきている。保険や弁護士系のサポートがあればより良い。	
	お客さん側への認知度向上など、資格自体の価値を高めて欲しい。		一部大手の旅行会社以外は、お客様にも知られていない制度だと感じる。もっとPRして欲しい。旅行会社との契約には必要な資格だと行政から通達して頂きたい。	
	取得しないとガイド業が出来ない訳ではないので、お客様に資格保有者の価値をもっとアピールして欲しい。		道としてもっと推薦し、価値を高めて欲しい。 個人のお客様に向けた認知度アップの取組を行ってほしい。認知度がなく、資格のないガイドも選択肢に入るだけでなく、北海道の自然自体がそこまで厳しいものではないという認識のため、ガイド付きのツアーがなじんでいない印象がある。	
資格認定方法について		更新の内容が毎回同じ（全ジャンル）。分野ごとに事例共有を行うなど質を高める内容にして欲しい。マスターを取得するメリットがまったくない。	車を使っの送迎ルールの緩和。スタート地点とゴール地点への移動などトレッキングツアーでは車を使えば、高付加価値ツアーの造成が可能。	更新手続きの簡素化や過去に資格取得した者が再取得する際の特例的扱いがあると良い。
運営方法について	お客さん側への認知度向上など、資格自体の価値を高めて欲しい。		資格保有事業者を優先して紹介するなど、メリットを高めて欲しい。	
ATに対応したガイドに求められる能力	語学力、富裕層に特化した対応、緊急時対応		外国語対応。基本的にはATに詳しい国内旅行会社と組んで進めていく（自分達はガイドに専念したい）。 語学力。それ以外は今自分達が行っていることを更に磨き上げることだと思う。	
ATWS2023の開催に向けた課題等			一番が言葉の壁への対策。次が、ATWSの詳細が伝わっていないので、具体的に何をどう準備していいのかわからない。地元登別の観光業界でもあまり知られていない、アドベンチャーに特化したマニア向けイベントだと思われ、敷居が高い。	
その他道や観光振興機構に対し、課題等のご意見		ガイドを使うタイプの観光を、もっと北海道にも前面に押し出して広報してほしい。今のままでは「ガイドがいなくても観光できる土地」である。また、地域にもガイド資格制度の認識を広めてほしい。	どうみん割やGOTOは有り難いが、運用が私達にもお客様にも複雑すぎる。シンプルにクーポンのみの運用がよい。AT資格を新たに作る前に、北海道アウトドア資格がなくてもガイドが出来るのは変である。無免許運転と同じ。 ガイドが安心してツアーを催行するためには医療機関とのつながりが欲しい。いづどこで何があっても対応できる体制づくり（外国語対応も）を検討して頂きたい。 どうみん割はありがたいが、その反動が怖い（安くないとお客様がこない）。アジア人とは違い欧米人対応になれていないため壁や恐怖心を感じている（特に英語力）。英語が出来る人とアウトドアガイドがセットで案内するスキームや、海外の旅行会社との交渉や個人客への対応をサポートして頂ける支援（AT対応可能な旅行会社との協業支援）などがあるとよい。	